

東日本大震災からの復興に向けて

元総務相、前岩手県知事
増田寛也

- *1000年前を繰り返す？
- *自然災害とどう共生するか
- *津波に有効だった防災教育
- *市町村機能を再認識
- *即戦力になる対口支援
- *戦時下のはずでも書面主義
- *社会システムとして対応
- *安全性の判断は国がすべし
- *建築制限で土地を合理的利用
- *「東北自治州」のすすめ



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日は増田さんにおいでいただきました。岩手県知事のとくと、総務相を辞められたときにこちらでとてもいいお話をしていただきました。その増田さんに大災害の話をしていただくことになるとは思いませんでしたが、知事、総務相の時代からこういうこともある程度は考えて行政を進められたと思います。

それに比べると、今の総務相は措くとして、東北の知事にはどうももうひとつという方が多いし、少なくとも連携が全然とれていないようです。残念なことです。事情をよくご存じで、かつ見識豊かな増田さんに今日はたっぷりお話を伺います。（拍手）

増田 今お話がありました、私も地震、あ

るいは地震による津波で、これだけ大きな被害が出たことについてこの場でお話をするなどとは、まったく想定もしておりませんでした。

今回の地震はマグニチュード9・0ということです。私が知事のとくにも、三陸地域の防災計画を途中で改定、見直しをしましたし、地元へのその普及といったことも行いました。ただマグニチュード8・5程度を前提の防災計画でした。明治以降、三陸地域は大きな津波に3回見舞われていまして、明治29（1896）年、昭和8（1933）年、昭和35（1960）年、それに続く今回が4回目です。

昭和35年の津波は、地震自体は遠くチリで起きたもので、人類が今まで観測した中で最大となるマグニチュード9・5というものでした。